

愛 媛 県 病 院 事 業 会 計



## 第 5 愛 媛 県 病 院 事 業 会 計

### 1 概 要

#### (1) 事業の実施状況

病院事業会計に属する病院は、中央、今治、南宇和及び新居浜の4病院である。

#### ア 病院の利用状況

病院の利用状況は次表のとおり、入院患者延べ 424,064人、外来患者延べ 732,161人、計 1,156,225人となっており、前年度に比べて入院患者は延べ 26,505人、外来患者は延べ 42,911人、計 69,416人減少している。

病床数は 1,675床で、前年度より 47床減少し、病床利用率は 69.22%と 2.47ポイント低下している。

病院名	入 院 ・ 外 来 別	病床数	平成25年度 (A)			平成24年度 (B)			増減 (△) (A)－(B)		
			延 患 者 数	1 日 平 均 患 者 数	病 床 利 用 率	延 患 者 数	1 日 平 均 患 者 数	病 床 利 用 率	延 患 者 数	1 日 平 均 患 者 数	病 床 利 用 率
中央	入 院	床	人	人	%	人	人	%	人	人	ポ イ ント
	外 来	827	251,891	690.1	83.11	268,541	735.7	85.15	△ 16,650	△ 45.6	△ 2.04
	(3日間休診) 計	(864)	389,974	1,618.1		424,614	1,733.1		△ 34,640	△ 115.0	
		( )は25.5.3まで	641,865	2,308.3		693,155	2,468.8		△ 51,290	△ 160.5	
今治	入 院	320	73,480	201.3	62.91	78,390	214.8	67.11	△ 4,910	△ 13.5	△ 4.20
	外 来		142,247	583.0		144,325	589.1		△ 2,078	△ 6.1	
	計		215,727	784.3		222,715	803.9		△ 6,988	△ 19.6	
南宇和	入 院	199	34,243	93.8	47.14	35,186	96.4	48.44	△ 943	△ 2.6	△ 1.30
	外 来		81,627	334.5		90,107	367.8		△ 8,480	△ 33.3	
	計		115,870	428.4		125,293	464.2		△ 9,423	△ 35.8	
新居浜	入 院	329	64,450	176.6	53.67	68,452	187.5	55.32	△ 4,002	△ 10.9	△ 1.65
	外 来		118,313	484.9		116,026	473.6		2,287	11.3	
	計		182,763	661.5		184,478	661.1		△ 1,715	0.4	
合計	入 院 外 来 計	1,675	424,064 732,161 1,156,225	1,161.8 3,020.6 4,182.4	69.22	450,569 775,072 1,225,641	1,234.4 3,163.6 4,398.0	71.69	△ 26,505 △ 42,911 △ 69,416	△ 72.6 △ 143.0 △ 215.6	△ 2.47

## イ 施設及び医療機器の整備状況

### (7) 施設の整備状況

中央病院において、高度医療機器であるガンマナイフを更新整備するにあたり、ガンマナイフ棟を新築した。

### (イ) 医療機器の整備状況

医療水準の高度化並びに診療及び診療支援業務の合理化・効率化を図るため、中央病院のガンマナイフをはじめとして、今治病院のMR I、南宇和病院の生化学自動分析装置、新居浜病院の手術用顕微鏡システム(脳神経外科用)など、総額 24億 2,713万円で 276点の機器を整備している。

## ウ 中央病院建替えの取組状況

中央病院の建替えについては、P F I 手法による新本院の建設や施設運營業務等が進められており、前年度に引き続き、新本院の新築工事を行い、平成25年5月には、旧本院から新本院へ病院機能を移転し、診療を開始したところである。

## エ 経営健全化への取組状況

「第3次愛媛県立病院財政健全化計画」(平成21年8月策定)に基づき、最終年次にあたる当年度は、新居浜病院におけるオーダーリングシステムの導入、中央病院における重症系・手術部門システムの導入や、小児医療センターの設置などの経営健全化方策を実施している。

当年度の純利益は1億円余となり、中央病院の施設運営に伴う経費(P F I 運営委託費等)、資産減耗費などの費用が増加したため、本計画の見込み(8億4千万円余の純利益)を、大きく下回ったものの、各種施策の取組により、平成22年度から単年度黒字を確保している。

## (2) 経営状況

経営状況(消費税等を含まない額)は、医業収益に医業外収益を加えた総収益が 38,827,091,635円、医業費用に医業外費用を加えた総費用が 38,697,061,322円で、差引き 130,030,313円の純利益を生じており、総収支比率(総収益÷総費用×100%)は 100.34%となっている。

前年度と比較すると、純利益は 1,797,570,259円(93.25%)減少し、総収支比率も 4.9ポイント低下している。

また、累積欠損金は 18,219,756,628円となっており、前年度より 130,030,313円減少している。

## 2 予算及び決算の状況（決算報告書）

予算額に対する決算額及びその内容は、次のとおりである。

### (1) 収益的収入及び支出

#### 収 入

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減 (△)	執行率 (B)／(A)	備 考
	円	円	円	%	
<b>病 院 事 業 収 益</b>	<b>43,305,370,000</b>	<b>38,889,038,466</b>	<b>△ 4,416,331,534</b>	<b>89.80</b>	
医 業 収 益	39,033,358,000	34,656,910,975	△ 4,376,447,025	88.79	
医 業 外 収 益	4,270,012,000	4,232,127,491	△ 37,884,509	99.11	
特 別 利 益	2,000,000	0	△ 2,000,000	0.00	

病院事業収益決算額は 38,889,038,466円で、予算額に比べて 4,416,331,534円の減収となっており、執行率は 89.80%となっている。

医業収益の主なものは入院収益 24,760,835,995円である。

#### 支 出

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額	不用額	執行率 (B)／(A)	備 考
	円	円	円	円	%	
<b>病 院 事 業 費</b>	<b>42,429,184,000</b>	<b>38,304,641,461</b>	<b>0</b>	<b>4,124,542,539</b>	<b>90.28</b>	
医 業 費 用	41,314,979,000	37,364,716,831	0	3,950,262,169	90.44	
医 業 外 費 用	1,104,705,000	939,924,630	0	164,780,370	85.08	
特 別 損 失	8,000,000	0	0	8,000,000	0.00	
予 備 費	1,500,000	0	0	1,500,000	0.00	

病院事業費決算額は 38,304,641,461円で、4,124,542,539円の不用額を生じており、執行率は 90.28%となっている。  
 医業費用の主なものは、給与費 19,986,492,938円、材料費 8,906,596,348円である。  
 医業費用の不用額の主なものは、材料費、資産減耗費、給与費である。

(2) 資本的収入及び支出

収 入

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	予 算 額 に 比 べ 決 算 額 の 増 減 (△)	執行率 (B)／(A)	備 考
	円	円	円	%	
<b>資 本 的 収 入</b>	<b>11,225,575,000</b>	<b>10,510,318,000</b>	<b>△ 715,257,000</b>	<b>93.63</b>	
企 業 債	4,970,500,000	4,064,800,000	△ 905,700,000	81.78	
国 庫 補 助 金	288,901,000	398,260,000	109,359,000	137.85	
他 会 計 か ら の 借 入 金	4,000,000,000	4,000,000,000	0	100.00	
他 会 計 か ら の 負 担 金	1,966,174,000	2,047,258,000	81,084,000	104.12	

資本的収入決算額は 10,510,318,000円で、予算額に比べて 715,257,000円の減収となっており、執行率は 93.63%となっている。

支 出

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額	不用額	執行率 (B)／(A)	備 考
	円	円	円	円	%	
<b>資 本 的 支 出</b>	<b>12,424,942,000</b>	<b>11,551,402,998</b>	<b>0</b>	<b>873,539,002</b>	<b>92.97</b>	
病 院 設 備 費	4,920,990,000	4,651,804,246	0	269,185,754	94.53	
企 業 債 償 還 金	3,503,952,000	2,899,598,752	0	604,353,248	82.75	
他 会 計 か ら の 借 入 金 償 還 金	4,000,000,000	4,000,000,000	0	0	100.00	

資本的支出決算額は 11,551,402,998円で、873,539,002円の不用額を生じており、執行率は 92.97%となっている。  
なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額は当年度損益勘定留保資金で補てんしている。

### 3 経営成績（損益計算書）

当年度の経営成績は別表 1 のとおりで、その内容は次のとおりである。

当年度純利益は 130,030,313円となっており、前年度に比べて 1,797,570,259円（93.25%）減少している。

#### (1) 医業損失

医業収益 34,607,521,104円に対し、医業費用は 37,022,270,695円で、差引き 2,414,749,591円の医業損失を生じており、前年度に比べて 1,684,402,982円（230.63%）増加している。

医業収益は、前年度に比べて 159,517,256円（0.46%）減少している。これは外来収益、その他医業収益が増加した一方で、入院収益が減少したことによるものである。

医業費用は、前年度に比べて 1,524,885,726円（4.30%）増加している。これは主として経費の増加によるものである。

#### (2) 経常利益

医業損失に医業外収益 4,219,570,531円を加え、医業外費用 1,674,790,627円を差し引いた経常利益は 130,030,313円となっており、前年度に比べて 1,797,570,259円（93.25%）減少している。

医業外収益は、前年度に比べて 245,470,260円（6.18%）増加している。これはその他医業外収益、受取利息が減少した一方で、一般会計からの負担金が増加したことによるものである。

医業外費用は、前年度に比べて 358,637,537円（27.25%）増加している。これは主として、支払利息、非課税売上分消費税が増加したことによるものである。

#### (3) 当年度純利益

経常利益の 130,030,313円が当年度純利益となっており、前年度に比べて 1,797,570,259円（93.25%）減少している。

なお、病院別損益の状況は別表 3 のとおりである。

#### 4 剰余金の状況（剰余金計算書及び欠損金処理計算書）

当年度における欠損金の処理及び剰余金の増減については、次のとおりである。

##### (1) 資本剰余金

前年度末残高 17,686,134,833円に対し、次のとおり国庫補助金、県補助金及び受贈財産評価額の発生・処分、寄附金の処分があり、当年度末残高は 19,177,214,137円となっている。

##### ア 国庫補助金

前年度末残高 2,160,846,335円に、社会資本整備総合交付金 398,260,000円を加え、医療機器の除却に伴う取崩し 351,217,583円を差し引いた国庫補助金の当年度末残高は 2,207,888,752円となっている。

##### イ 県補助金

前年度末残高 14,857,336,470円に、建設改良費負担金等 2,047,258,000円を加え、医療機器の除却に伴う取崩し 486,695,177円を差し引いた県補助金の当年度末残高は 16,417,899,293円となっている。

##### ウ 受贈財産評価額

前年度末残高 641,654,002円に、リース期間の終了した医療機器の受納分等 2,014,250円を加え、医療機器の除却に伴う取崩し 115,840,186円を差し引いた受贈財産評価額の当年度末残高は 527,828,066円となっている。

##### エ 寄附金

前年度末残高 21,119,000円に、医療機器の除却に伴う取崩し 2,700,000円を差し引いた寄附金の当年度末残高は 18,419,000円となっている。

##### (2) 未処理欠損金

前年度繰越欠損金 18,349,786,941円に、当年度純利益 130,030,313円を加え、当年度末の未処理欠損金残高は 18,219,756,628円となっている。この未処理欠損金は、翌年度へ繰り越すことになっている。

#### 5 財政状態（貸借対照表）

当年度末における財政状態は別表2のとおりで、その内容は次のとおりである。

資産は 64,991,949,736円で、前年度に比べて 8,927,036,972円（12.08%）減少している。

負債は 21,648,984,817円、資本は 43,342,964,919円となっており、前年度に比べて負債は 11,713,347,837円（35.11%）減少し、資本は2,786,310,865円（6.87%）増加している。



### (1) 資 産

ア 固定資産は 50,033,807,068円で、資産合計に対する構成比率は 76.98%となっており、前年度に比べて 2,559,569,405円増加している。これは建設仮勘定、業務設備が減少した一方で、病院設備が増加したことによるものである。

イ 流動資産は 13,068,216,214円で、資産合計に対する構成比率は 20.11%となっており、前年度に比べて 11,598,502,870円減少している。これは主として現金預金の減少によるものである。

なお、未収金 7,307,864,797円のうち医業未収金は 6,117,047,494円で、その内容は、保険者負担分 5,493,813,242円、個人負担分 623,234,252円となっており、個人負担分のうち過年度未収金は 450,866,659円となっている。

ウ 繰延勘定は 1,889,926,454円で、資産合計に対する構成比率は 2.91%となっており、前年度に比べて 111,896,493円増加している。これは控除対象外消費税額の増加によるものである。

### (2) 負 債

ア 固定負債は 15,051,147,811円で、負債資本合計に対する構成比率は 23.16%となっており、前年度に比べて 459,423,647円増加している。これは引当金、長期未払金の増加によるものである。

イ 流動負債は 6,597,837,006円で、負債資本合計に対する構成比率は 10.15%となっており、前年度に比べて 12,172,771,484円減少している。これは預り金が増加した一方で、未払金が減少したことによるものである。

### (3) 資 本

ア 資本金は 42,385,507,410円で、負債資本合計に対する構成比率は 65.22%となっており、前年度に比べて 1,165,201,248円増加している。これは中央病院の建替え等に係る企業債の増加によるものである。

イ 剰余金の内訳は、資本剰余金 19,177,214,137円、欠損金 18,219,756,628円となっている。